

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800404		
法人名	医療法人 社団 昌徳会		
事業所名	グループホームかもめ		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免893番地		
自己評価作成日	令和2年8月21日	評価結果市町村受理日	令和2年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①時間にとらわれず自分のペースで生活し、自分らしく暮らして頂きたいと考えている。
②出来ることは自分で行ってもらい、見守り声掛けをしていくことで自信と達成感を持ってもらいたいと考え支援している。
③地域との交流を大切にしている。
④食事を楽しんでもらいたいので行事の時は手作り弁当を作り、出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海岸通りに面し、フェリーの入出航が間近に見える風光明媚な場所に建ち、病院、郵便局、銀行等が徒歩圏内にある利便地である。6項目の理念は、利用者がその人らしく暮らすための基本として、管理者と職員が常に意識し支援に活かしている。また、母体医療法人との24時間連携体制は、利用者、家族、職員の安心に繋がり、事業所の強みである。更に職員の笑顔での対応が利用者の穏やかな表情や落ち着きのある様子とリンクし、家庭的な雰囲気である。運営推進会議では、他同業事業所と相互に相談、助言を行い運営に活かしていることが、議事録から確認できる。地域の独り住まい高齢者の安否確認体制に加入し、相談を受けるなど地域に深く浸透しており、個性のある利用者が、より本人らしく安心して暮らせる取組みがある事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関入り口と事務所内に掲示。月1回のスタッフ会議前に全員で唱和し確認しあっている。	見やすい場所に掲示された6項目の理念を管理者と職員は共有している。利用者のできることを探し、出来た喜びや達成感のある家庭的な自由な暮らしと、よりその人らしい暮らしを常に意識し、実践に繋げている。今年度の介護目標は、“言葉遣いに注意し、温かい介護を行う”である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは日頃より気軽に関わりを持ちホーム行事には声掛けをし来所をお願いしている。一人暮らしの高齢者の悩み相談を受けることがある。	自治会に加入し回覧板を回したり、敬老会に饅頭を配るなど地域住民と日常的に交流している。独り住まい高齢者の安否確認体制への加入や中学生の職場体験学習、ボランティア受入れの他、地域の祭りに協力し、地域と繋がりがながら地域住民と触れ合えるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生の訪問や職場体験、施設見学など積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施、多職種の方に出席をいただき貴重な意見やアドバイスを受け、サービスの向上に活かしている。	年6回、規定の参加者と他事業所の複数の参加で開催している。避難訓練、ヒヤリハット、現状説明など詳細に記した議事録から確認できる。意見交換で他事業所との相互の助言やアドバイスを運営に活かしている。現在、新型コロナウイルス感染予防のため法人内関係者での開催である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や問題が発生したときはすぐに問い合わせをしている。運営会議での質問に対しては担当者が持ち帰り後日説明を受けている。	介護保険の更新、申請など本庁に出向き、相談や疑問点は電話で顔馴染みの担当者に聞いている。福祉事務所にも相談する他、事業所の実情を伝え、協力関係を築いている。市主催の研修会には、研修内容に合わせ職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会発足し(平成23年5月～)現在3か月毎に開催。全員がメンバーに入っており内容はスタッフ会議で報告する。	身体拘束等の適正化のための研修を3ヶ月毎に開催している。何事も本人の意思を確認し、無理強いをしないケアに努めている。日中玄関の施錠は無く、自由に出入りでき、帰宅願望がある利用者は職員が同行し、気分転換を図っている。言葉遣いにも配慮した取組みがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、マスコミで取り上げられた事例を持ち寄り話し合い検討会を開いている。ことば使いには特に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会が少なく必要な時は包括支援センターへ相談するようにしている。今までに成年後見制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には質問を受けながら丁寧に説明し、理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、家族の面会があるときは必ず話をし近況報告をし、意見要望を訪ねている。	ホーム便りを3ヶ月毎に郵送し、家族から日頃の様子がわかると喜ばれている。家族等の訪問時や電話で要望等を気軽に話してもらえようという関係づくりに努めている。毎年1回は家族会を開いているが、新型コロナウイルス感染予防のため今年中止している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を開催し意見を出し合っている。 法人側より参加してもらい要望を上げている。	毎月ユニット合同でスタッフ会議を開き、職員の意見を管理者がまとめて事務長へ伝えている。個人面談は常時受付け、特に新人職員の面談は管理者が実施している。職員の強い要望で、車椅子車輛の購入や庭園の整備が実現し、倉庫の撤去で広く見晴らしの良い庭園となっている。職員の勤務シフト変更や有給休暇などにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	院内外研修参加、施設内行事参加者名簿を作り法人役員へ報告し評価資料にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し研修参加支援を行っている。資格取得に関しては積極的に応援している。平成28年、29年に介護福祉士合格者		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・運営推進会議には他のグループホームより参加してもらい活発な意見交換が出来る。 ・3施設の会議にも参加しお互いの情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えを十分に傾聴し話し合い向き合い解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る経緯について詳しく聴き何を希望されているのかを把握し一緒に考えていく可能な場合は入所前訪問をし面識をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の思いをよく聴き可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすことで学びも多く良好な関係を保つことができている。 人生の先輩として色々な事をたずね教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方だったり面会が少ない方には電話や手紙を利用している。 かもめ情報紙を3カ月毎に発送し日常生活の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・理容美容室はなじみの店を利用してもらっている。 ・地域行事は顔見知りと会う機会が多いので出来るだけ出かけ交流を継続させている。	職員は利用者の生活歴や習慣を把握し、これまでの馴染みの理美容室の利用継続を支援している。庭園のベンチで外気浴しながら知人と挨拶したり、地域の祭り等で住民と交流できるよう支援している。墓参りには家族等の協力もあり、馴染みの人や場所の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な方が他利用者に対し声掛けや手助け等されているときは感謝の気持ちを伝える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されても電話などにより様子を伺っている。 ・最悪亡くなられた場合はお参りをしお別れをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を最優先に考え対応している。コミュニケーションが難しい時は家族に相談し話し合いの場を作っている。	職員は日常会話で、利用者が思いを表現しやすいような声掛けを心掛けている。会話から得た情報は、申し送りノートに本人の言葉で記録し、スタッフ会議で情報共有している。意思疎通や発語が困難な利用者は、微かな表情や仕草から、また家族と相談しながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前居宅ケアマネ、医療機関よりサマリーなどで情報を得ている。可能であれば入所前訪問をし面識を取るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり時間を気にする事のない自由な生活を送ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ケア会議を開き担当は他の職員に意見やアドバイスをもらい計画に活かすようになっている。モニタリングは毎月行っている。	介護計画は、長期1年短期3ヶ月の期間で作成している。毎月モニタリングを実施し、ケア会議で支援状況を確認している。サービス担当者会議の要点と称した書類は、職員の気づきや本人の意向がわかりやすく、支援計画に反映している。ただし、遠方の家族への説明やサインの確認が難題となっている。	家族の同意確認を取った際の記録が、書面上でわかりやすく確認できるよう検討、工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡帳、生活チェック表を利用し情報を共有している。実践の中から介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ出来る範囲での支援を行うようになっている。 外出希望時同伴する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	機会があれば、住民自主組織が運営している集いの場へ参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人がかかりつけ医となっているが、希望するところを受診するようにしている。病院は近くにあり24時間体制で連携している。	かかりつけ医を希望する場合は継続できるよう職員が同行し支援している。病状や総合病院受診時は家族と共に職員が同行し、適切な医療が受けられるよう事業所での様子を伝えている。受診内容は生活記録に記録し、職員は利用者の健康状態を共有している。法人医院との連携もあり、夜間緊急時のサポート体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有の為、連絡帳生活記録、熱型表等を作成し異常の早期発見に努めており必要時は情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供。入院中の様子をたずね家族にも報告している。入院中の洗濯物はホームで行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りについて説明は行っているが最終的には家族と主治医で本人にとって最善と思われる方向を慎重に話し合い決定している。	利用開始時に、“重度化した場合における(看取り)指針”を基に説明し、同意を得ている。事業所では、口からの食事摂取が困難になった場合、医師の診断や家族の意向から、利用者にとって最善と思われる支援を話し合っている。これまでは入院になることが多く、事業所での看取りに至った事例がない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアル作成、又、消防職員による指導実演を受けている。AEDの取り扱い、救急蘇生法等		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	・防災対策計画、災害対策、原子力災害避難対策作成。備蓄品の確保、ハザードマップ掲示 ・消防設備自主点検実施(3カ月毎)	年2回消防署立会いの消防総合訓練、他1回夜間想定訓練を実施している。緊急連絡網に地元消防団も含め、訓練時は近隣住民へ協力を確認している。地震・高潮・大雨など自然災害や原子力災害避難対策も実施している。避難時の利用者の名札、持ち出し備品・備蓄を整備し、わかりやすく管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は個人の家と考え、対応している。日常の声掛けには名前を呼ばせてもらっている。 ・接遇マナーの研修会は必ず出席するようにしている。 	<p>理念は、利用者の人格を尊重した支援提供の視点から構成しており、日常的な支援にて具現化している。外部講師による接遇の内部研修を受講し、言葉掛けや接し方に配慮している。写真使用や個人情報の使用範囲について、家族の同意を得ている。ただし、事務所にて管理する書類保管に細心の注意が必要である。</p>	<p>事務所には家族や部外者が入室することがあり、個人名を明記した書類の管理方法の徹底が望まれる。</p>
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・不穏な行動がある場合はしばらく様子を見て刺激しないように声掛けをし落ち着かせるようにしている。 ・意志疎通が難しい方は動きや表情の変化を見るようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>基本的には個人の都合を優先しているが、都合がつかない場合は理由をしっかりと説明し後日実行している。</p>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のお気に入りの服を着てもらうが季節感がなかったり夏場の重ね着は注意している。 ・美容・利用室は行きつけを利用している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>食材は旬のものを使い下ごしらえは利用者をお願いしている。つわ、ふき、芋づるの皮むき等は競って参加され食卓に出ると喜ばれる。</p>	<p>法人栄養士の献立を基に、職員は利用者の好みに合わせて調理している。食材は旬のものを使用し、つわや芋づるなど、下準備を利用者をお願いしている。嚥下に合わせ刻みやトロミに対応している。誕生月は、献立にリクエストを取り入れると共に、季節行事食や折詰風の盛付など、見た目からも食事を楽しむ工夫があり喜ばれている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>夏・冬7日分の献立内容を管理栄養士にチェックしてもらっている。コメントをもらい不足分を補うようにしている。</p>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後口腔ケアの声掛け実施 ・出来ない方には介助をし個人に合ったブラシを使用 ・定期的に洗剤を使用して洗浄 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に時間を見て排泄を促している。 ・オムツの方でも不穏な動きを見て排便だけはトイレで済ませている。 ・昼間はつかまり立ちが可能であればトイレ介助している。 	<p>日中は、トイレで座位による排泄支援に取り組み、自立に近い支援が実現している。排泄状況を個別の排泄チェック表に記録し、職員は排泄改善に向けた支援を検討している。入居者のプライドに配慮しながら、声掛け誘導することで尿漏れを減らし、パッド使用頻度の軽減に繋げている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>排泄チェック表により全スタッフが把握できている。便秘に対してはレクリエーション参加を促し、水分補給、食物繊維の多いものを摂るようにしている。改善がない場合は医師に相談している。</p>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<p>午前と午後に入浴することでゆっくり時間をかけ介助が出来るようになった。拒否があるときはゆっくり理由を聴けるようになった。</p>	<p>週3回午前午後に分けて、入浴を支援している。入浴拒否があった場合は無理強いしない。好みのシャンプー類、入浴後の保湿クリームなど、個別に支援している。一人ひとりの入浴時間を十分に取ることで、職員との関わりが増え、会話を楽しんでいる。菖蒲湯や柚子湯で寛いだ気分での入浴となるよう支援に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼寝をするとよる眠れなくなるので出来るだけ昼は動いてもらうようにしている。 ・心配があるときは話を聴くようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<p>薬事情報紙個別にとじており誰でも見られるようにし特に副作用については注意してみている。</p>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・能力に合った手伝いをしてもらい希望があれば外出に同行している。 ・自分の財布を持ち、買い物に出かけてもらっている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば出来る限り家族とも連絡しあい希望に沿うようにしている。 ・地域の方とのおでかけはない。 	<p>現在、新型コロナウイルス感染予防のため外出自粛中ではあるものの、利用者のその日の希望に応じ、事業所周辺や敷地内など散歩している。敷地内に於いては、利用者が自由に活動したり、新しくベンチを設置することで、誰もが外出したくなる工夫も見られる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば一緒に出掛け買い物をしてもらっている。自分で支払いが出来る方には財布を持たせるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話を入れ直接話してもらっている。直接の依頼があればハガキや手紙は代読している。携帯電話は自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎月フロアに季節感を味わってもらえるようその時期に合ったものや作品を飾っている。 ・庭には季節の野菜を植えるようにしている。	陽当りの良いリビングは、カーテンで採光を調節し、利用者が好みの場所で寛いでいる。壁には季節の花の作品を飾っている。利用者がテレビ体操で身体をほぐし、元気な様子が窺える。玄関には季節の活け花を飾り、掃除や整頓も行き届き、居心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関前に長イスを設置しくつろいでもらったり地域の方と会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れたもの、大切にされているものを持ち込んでもらうようにしている。ご主人の位牌、家族の写真等自由に持ち込んでもらっている。	自宅からテレビや衣装ケース、整理棚や仏壇などを持ち込んでいる。壁には見やすい時計、本人の誕生日の祝い写真、家族等の写真を貼り、車椅子利用でもスムーズに移動できる配置である。掃除や換気も定期的に職員が行い、清潔で臭気もなく寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・分かりにくい場所には目印を付け見守りを行っている。 ・車いす利用者が多いので自走時の事故がないよう環境整備を心がけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800404		
法人名	医療法人 社団 昌徳会		
事業所名	グループホームかもめ		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免893番地		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の人生観を大切に考え、失礼のない言葉がけや介助を行い、その為に常にスタッフ間で話し合いを行い利用者が生き生きと自立した生活が送れるように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はスタッフが常に目に入るところに掲示し月1度の会議で全員で唱和し理念に沿った支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出など積極的に地域にでかけている。近所の方にも声をかけてもらう機会も増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、研修内容報告を行ったりご家族近所の方、他施設、市役所職員と関わる事から認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの状況、取り組み等を報告している。そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言をいただいたり、グループホームの連絡会発足に関わっていただいている。必要時には随時連絡確認をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員で身体拘束委員会を立ち上げ3カ月に1回、意見の交換見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底の為に事業所内で勉強会などを行い発生を未然に防ぐ対策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて権利擁護に関する事柄をスタッフに伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった時は十分時間をかけ契約を交わされている(施設長)また、重要な点はより詳しく説明し、不安や疑問にも丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見には耳を傾け、運営に関する事で説明できる範囲のことについては説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、スタッフの意見、提案を聴く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や有給休暇に協力的であり、スタッフの状況に合わせて勤務形態も調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院の研修に参加したり外部研修などにも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、勉強会などに参加し、他の事業所の方と情報交換を行い、参考点は積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報をもとに本人からの話を十分に傾聴し性格などの把握を行い、他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の不安や要望等の想いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況の把握とご家族の意向をしっかり確認して必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは家庭的な雰囲気の中協力して洗濯物の片づけをしたり手伝って頂きながら日々の生活を共有するものとして感謝の気持ちを伝え、良い関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながらご家族様でなければできない部分を協力していただき力を合わせて支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域への外出など、希望により実施している。面会も自由にきていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操、レクリエーションなどでコミュニケーションが図れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に生活をした入居者が退居した場合、家族の許可を得て面会に行ったり、電話で家族の方に様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員で話し合い統一したケアを提供している。入居者には本人、家族から情報収集して意向に沿ったケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に生活歴について訊ねている。趣味やこだわりなどはケアプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し状態の変化が分かるようにしている。毎月のスタッフ会議で全入居者の変化について話し合う機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と家族に意見・要望を聞いたうえでスタッフの意見も反映しながらケアプランを作成している。毎月のモニタリングに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務日誌に状態・変化を記録している。また介護計画のモニタリングに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の際はボランティアを取り入れたりサービスの多様化につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。実習生やボランティアの来訪など地域の多くの方々との関りを継続することで生活に刺激を得られるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医の受診を継続している。また本人の状況に応じて適切な医療が受けられるようにご家族と相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	食事やバイタルの状況、日々の変化を看護師へ随時報告しており相談しやすい関係性である。看護と介護の間で情報を共有しやすいように記録の見直しを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に訪問し、ご家族と協力しながら備品の補充や洗濯などを行っている。医師の説明等にはご家族の同意を得て同席し、意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族に説明し意向を聞いている。施設でできる事出来ない事、緊急時の対応等説明し同意をいただいている。スタッフ間でも同じ指針で介護している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは年1回心肺蘇生法とAEDの取り扱いの講習を受けている。利用者の状況が悪化している場合は個人の情報をまとめ、緊急時の対応や連絡の手順を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署立会のもと避難訓練を行っている。訓練では火災や災害を想定し実施している。災害時マニュアルの見直しや備蓄品も確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している他守秘義務について十分理解し責任ある取り扱いと管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの自己判断で進めるのではなく必ずどんなことでも相手に確認し意見を伺うような言葉かけを意識して関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症で意思疎通が困難な状況であっても表情や反応などから状態の把握をしスタッフの都合とならないよう注意して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣味・施行の情報をもとに個性を大切にした支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは入居者の好みのメニューを把握している。季節感のある献立を取り入れおいしく食べて頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表に水分量、食事量の記録をし不足しているときは状態に合わせて補給・補食を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態に応じた支援が出来るようにチーム内で確認しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、記録して出来る限りトイレに誘導して排泄できるように自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握をし個々の状態に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴椅子や手すりなどを備え安全安心に入浴できるようにしている。入浴時間は午後からとしゆっくりと入って頂けるようゆとりをもって支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアか居室など本人が自分で選択し居室の温度管理や寝具の調節など安らげるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう見直し確認を徹底している。薬の内容も薬情報を見て副作用等学習している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や仕事歴から役割分担をし日々の生活に取り入れられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩等の外出の機会を作るほか季節に応じ地域の催しや祭り、ドライブ等の外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で預かるようにしていますが、日用品、嗜好品など希望に応じて購入ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたいたりしている。携帯を持たれている方は自由に連絡をとっていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整、照明、音楽やテレビの音量調整を快適に過ごして頂けるようにしている。また季節ごとの飾りつけを取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアか居室など本人が自分で選択し安らげるような環境づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、入居前から本人が使用されていたものなどを置いて自宅や家族を感じ、快適に過ごせるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室などにはわかりやすいように表示を付けています。		